

服巻研究室における人材養成の観点

【指導方針】

- ▶ 「軽い調子で、ビックな提案」をしていこう

【体験重視型の人材養成】

- ◎何事もまずはやってみよう
- ◎やって体験したことから考えてみよう
- ◎自分と他者の体験を大切にし、仲間と語り、共有し、体験を深めよう
- ◎臨床現場に飛び込み（放り込まれ）、体験し、しっかり振り返ろう

【体験にあたって大切にしていること】

- ◎笑顔を大事に
- ◎挨拶をしよう
- ◎どんな状況でも楽しむ気持ちを大切にしよう
- ◎自分もまわりも元気になることを探そう

【臨床家育成の方向性】

- ◎アセスメントができる（観察による見立て、発達評価、知能検査等による見立て）
- ◎個別支援ができる（カウンセリング、動作法）
- ◎集団支援ができる（心理劇、ストレスマネジメント教育）
- ◎地域支援ができる（動作法月例会・集中訓練会、病院・学校などの地域に向いてコンサルテーション等による支援をする）
- ◎コーディネートができる（個人と地域や個人と家族、個人と学校・病院などの社会や地域とつなぐ役割を担う）

【研究の方向性】

- ◎実践研究に根差した研究デザインの構築
- ◎臨床的知見を重視した基礎から臨床を架橋した研究デザインの構築

【臨床実践や研究実践における標語】

- 誰を元気にするか、誰を笑顔にするかを考えよう。
- せっかくだから「元気が出る論文」を書こう。

【科学的視点を持った臨床実践家を育成するための目標】

臨床心理学を基盤として、臨床現場や実践研究からの臨床的問いに応えるべく、臨床心理学的実践研究、基礎心理学的手法を応用した介入研究、実証研究を行う基礎力を養成する。こうした研究基礎力を通じて、科学的視点を持った臨床心理士・公認心理師としての実践力・研究力を養うことを目的とします。

<学部から大学院までの一貫した研究指導（卒論・修論・博論指導）>

1. 先行研究をレビューし、研究計画を構築することができる
 - (1) 研究のマナー
 - 1) 研究レポート、レジメのマナーが身についていること
 - 2) タイトル、表現、論理構成力がレジメ作成に表現されていること
 - 3) 先行研究の引用方法、レポート作成の基本が身についていること
 - (2) レジメ発表にて以下のことを明示する
 - 1) 先行研究のレビュー（関心のある研究領域でなにがどこまで明らかになっているか、何がわかっていないのかを明らかにする）
 - 2) 先行研究の積み上げがどこまでできているか
 - 3) 自分の研究計画を発想するまでに妥当な論理構成であるかを説明できる
 - 4) 研究オリジナリティ・研究の意義を説明できる
 - 5) 研究デザイン（タイトル、問題と目的に合致した方法、分析（統計）手法）を計画できる
 - 6) 量的、質的分析（統計）方法について理解し、活用できる
 - (3) レジメや発表が素人にもわかるように構成、表現することができる
 - 1) 見やすい資料の作成
 - 2) わかりやすい論理構成（先行研究の理解と紹介）
 - 3) ゼミ生全員との共通認識を得ることができる
2. 上記研究計画について倫理審査を受ける
3. 先行研究（日本語・英語論文）をまとめ、レジメにて特研発表（年間最低2回以上）
4. 全体特研において研究計画、研究成果を報告すること
 - 1) 中間発表で研究計画について議論ができること
 - 2) 中間発表で得られた助言をもとに研究計画をブラッシュアップできること

3) 修論発表会にて研究成果に基づきオリジナリティと研究意義を説明できること

5. 全国規模の学会活動（心理学関係）

- 1) 必要な学会への入会・会員となることができる
- 2) 学会学術大会への参加
- 3) 学会学術大会での研究発表

6. 学会誌への投稿（査読者とのやりとり含む）

- 1) 日本語・英語に問わない
- 2) 投稿する学会誌を選定する（不採択の場合も予測し、いくつかの学会誌を選定する）
- 3) 投稿規程に準じて論文を作成
- 4) 英文抄録作成
- 5) 投稿する

※上記1～4については学部の卒業論文指導のなかで行われている。

※学部から大学院進学者は、この積み上げにより、上記のことを一人でできることを目指しましょう。

※なお、博士課程後期進学の場合は、学部から博士課程前期までの間に、学会発表は少なくとも2回以上を行うことが望ましいです。

（文責：服巻）